（様式４号）

まちづくりアドバイザー派遣結果報告書

令和６年(2024年)12月３日

茨城まちづくりセンター
運営委員長　　殿

申請者（主催者）　　氏名　つくば市長　五十嵐　立青

まちづくりアドバイザー派遣制度運営要項第６条の規定に基づき、次のとおり報告します。

実　施　日　時	令和６年(2024年)11月30日　13:00～16:00
主催者の名称	つくば市都市計画部都市計画課
講演会等の名称	令和６年度つくば市景観講演会
アドバイザー氏名	堀　繁　氏
実　施　場　所	会場名　つくば市役所本庁舎２階
参　加　者　数	49　名

講演内容（具体的に詳しく記入して下さい。）

【演題】「好み・センスが違うので景観の良し悪しは人次第」は本当だろうか？
～景観を学ぼう！～

【内容】

1 景観とは何か？
・建物・街並み≠景観
・景観とは「人が見る場所から見ること」（ものではなく、人間に起こる現象のこと）
2 人は何を見ているか？
・理解の手がかりとなる情報を探して見ている
3 人はどこを見ているか？
・見たいものを見ている。
・見たいものとは：個人で興味があるもの、理解の手がかり、誘う形
・見やすいものとは：見えの大きさが程よいもの＝見込み角が10°～20°
・人の鉛直視野は60°、水平視野は80°である。
・人間の骨格上、視軸線は水平よりも10°下にあるため、人は水平から上20°、下40°を見ている
→屋根は見ていない。下のほうを見ている。
・見るためには見る場所が不可欠である。
・見る場所が違うと見え方は全く異なる。
4 人は見たものをどのように評価しているか？
・自分との関係で評価する。
5 その評価は人によって違うだろうか？

・遠く、小さい、上にあるものよりも、近く、大きく、下のものを過大評価する。
・街は道路と沿道でできており、人は、道路６割、沿道４割で評価している。
　街が良くない≒道が良くない
・良い景観とは見たいものが見やすい状態にあること。
・見やすい状態というのは、下記の状態
①見込み角が10°～20°
②一番見たいものが一番大きい
③見たいものが他のものに邪魔されていない
6 人が必ずプラスに評価するものとは？
・「誘う形」と「丁寧な形」
7 では、人が必ずマイナスに評価するものとは？
・「拒む形」と「雑・手抜きな形」
8 景観まちづくりとは？
・道路６割、沿道４割で評価しているため、道が良くないと街は評価されない。
　→道路を、人が必ずプラスに評価する、誘う形と丁寧な形にする。
・人によって異なる、興味を持つものを対象とするのではなく、普遍的なもの（人が必ず評価するもの等）を踏まえて街づくりを行う。

感想など
〇参加者からの感想など
・丁寧に説明いただいたので、景観とは何かがわかった。
・景観に対して新しい視点を得られた。
・人が普遍的にプラスに評価する要素と、専門家が評価する要素は分けて考える必要があると感じた。
〇主催者の感想など
・午前の視察では市の中心市街地をご覧いただいたが、その中で多くの改善点をご教示いただき勉強になった。
・景観の担当者であるにもかかわらず、最初に街並みと街並み景観の違いを問われた際に答えが分からなかったが、今回の講演で景観とは何かがよく分かった。
・普遍的に人が良いと評価する要素についてご説明いただき、これまで、良いと思う景観はその人次第だと思っていたが、好みやセンスによらず、人が必ず良いと思うものがあるということが分かった。
・100枚以上の事例写真を用いて、参加者を巻き込みながらご説明いただいたので、参加者の皆様も楽しんでいる様子であった。